

---

# 薬局ニーズに関するアンケート

---

## 概要資料

平成30年2月

千葉県

## < 目次 >

### I 調査の概要

1 調査の目的 .....	1
2 調査の概要 .....	1
3 調査期間 .....	2
4 調査実施機関 .....	2
5 集計上・表記上の注意事項 .....	2

### II 集計結果の概要

1 薬局の利用状況 .....	3
(1)受診の実態及びかかりつけ薬局の利用状況 .....	3
Q1 定期的(3か月に1回以上)に何か所の医療機関を受診し、薬を処方されていますか。 .....	3
Q2 あなたが加入している医療保険制度は何ですか。 .....	3
Q3 医療機関で交付された処方箋をどこの薬局に持参し調剤してもらいますか。 .....	4
Q4 かかりつけ薬局をお持ちの理由は何ですか。 .....	5
Q5 医療機関に隣接した薬局を利用する理由は何ですか。 .....	5
Q6 街中の薬局を利用する、あるいは、利用する薬局を特に決めていない理由は何ですか。 .....	6
Q7 定期的に服薬しなければならない状態となった時、薬剤師・薬局をどう選びますか。 .....	7
Q8 薬の調剤以外で薬局を利用する目的はなんですか。 .....	8
Q9 常備薬をどのように入手しますか。 .....	8
(2)かかりつけ薬剤師・薬局の実態 .....	10
Q11 本アンケートに回答する以前に「かかりつけ薬剤師・薬局」と言う言葉を知っていましたか。 .....	10
Q12 お薬手帳を持っていますか。 .....	10
2 薬剤師・薬局に今後求める機能 .....	11
Q10 今後、薬剤師・薬局にどのような機能を求めますか。 .....	11

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

千葉県民の薬局へのニーズを把握することにより、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて地域で求められる薬局・薬剤師に関する課題を明らかにし、今後の地域に根ざした薬局づくり施策推進の基礎資料とするとともに、国が示す「患者のための薬局ビジョン」を具体的に推進するための必要なデータを得ることを目的として実施した。

## 2 調査の概要

### (1)調査手法

インターネット調査

### (2)調査対象

- ①千葉県内在住の満 20～79 歳の男女個人
- ②標本は二次保健医療圏（以下では、医療圏）の人口割合に沿って配分し、また、各医療圏内では千葉県の年代別人口構成（「20～39 才 31%」「40～59 才 38%」「60～79 才 31%」）に沿いつつ男女均等に配分することを目標とした。
- ③調査実施後、「香取・海匠」「山武・長生・夷隅」「安房」「君津」「市原」で「女性・60～79 才」が、「安房」で「男性・20～39 才」が不足したことから、それぞれの不足人数を同一医療圏・同年代の異性で補填した結果、標本の最終構成は以下となった。

【標本の最終構成】

二次保健医療圏	構成市町村	計	年代別構成								
			20～39歳(31%)			40～59歳(38%)			60～79歳(31%)		
			計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
千葉	千葉市	768	238	119	119	292	146	146	238	119	119
東葛南部	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市	1400	434	217	217	532	266	266	434	217	217
東葛北部	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市	1094	339	170	169	416	208	208	339	169	170
印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町	578	179	90	89	220	110	110	179	89	90
香取・海匠	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町	225	70	35	35	85	42	43	70	52	18
山武・長生・夷隅	茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町	348	108	54	54	132	66	66	108	63	45
安房	館山市、鴨川市、南房総市、館南町	103	32	11	21	39	19	20	32	20	12
君津	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦町	262	81	40	41	100	50	50	81	46	35
市原	市原市	222	69	35	34	84	42	42	69	36	33
計		5000	1550	771	779	1900	949	951	1550	811	739

(注)青字は対目標比増、赤字は対目標比減

### (3)調査内容

- ①薬局の利用状況について
- ②かかりつけ薬局について
- ③薬局・薬剤師に期待することについて 等

### (4)実査期間

平成 29 年 12 月 5 日（火）～平成 29 年 12 月 21 日（木）

## 3 調査期間

平成 29 年 10 月 18 日（水）～平成 30 年 2 月 28 日（水）

## 4 調査実施機関

株式会社流通リサーチ

## 5 集計上・表記上の注意事項

- (1)集計表中の n 欄は集計母数、その他の数値は割合(%)を示す。割合（%）は原則として小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。
- (2)複数回答の集計結果は割合(%)の合計が 100%を超える場合がある。
- (3)同趣旨の回答選択肢を合算した場合は『 』で示した。
- (4)回答者が 30 名未満の場合は原則として文中では言及しておらず、回答割合は参考数値とされたい。
- (5)割合の差はポイント（文中では「P」と略称）で示した。
- (6)この報告書で使用した符号は次の通り。

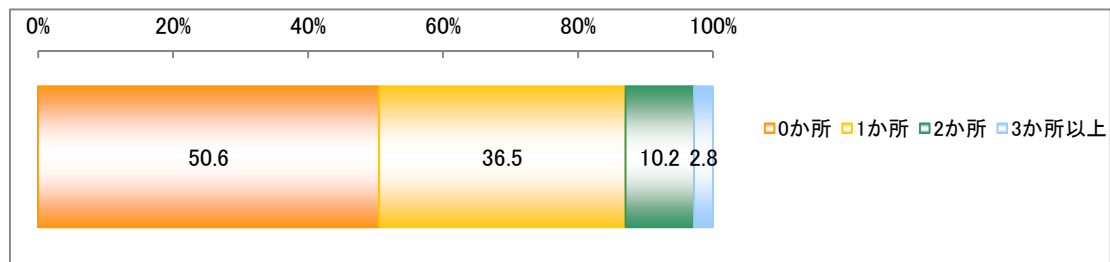
n	: 集計母数
SA	: 単一回答設問
MA	: 複数回答設問

## Ⅱ 集計結果の概要

### 1 薬局の利用状況

#### (1)受診の実態及びかかりつけ薬局の利用状況

Q1 定期的(3か月に1回以上)に何か所の医療機関を受診し、薬を処方されていますか。  
あてはまるものを1つ選んでください。



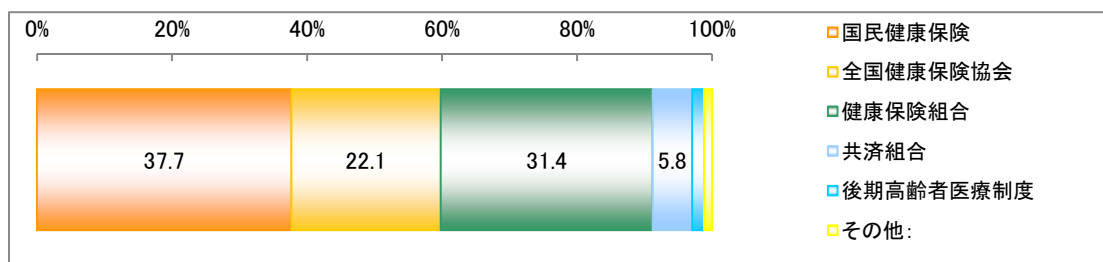
■ 定期的(3ヶ月に1回以上)に受診し薬の処方を受けている割合はほぼ半数(49.4%)

☞ 同割合は「印旛」が最多(54.3%)、「安房」が最少(40.8%)。

☞ 同割合は年代が上がるにつれて増加し、「60～79才」では70%超に(「20～39才 35.0%」→「40～59才 44.2%」→「60～79才 70.2%」)。

☞ 同割合は男性(51.1%)が女性(47.7%)よりやや多い。

Q2 あなたが加入している医療保険制度は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。



■ 加入している医療保険制度は多い順に以下:-

1位 国民健康保険 : 37.7%

2位 健康保険組合 : 31.4%

3位 全国健康保険協会 : 22.1%

4位 共済組合 : 5.8%

5位 後期高齢者医療制度 : 1.8%

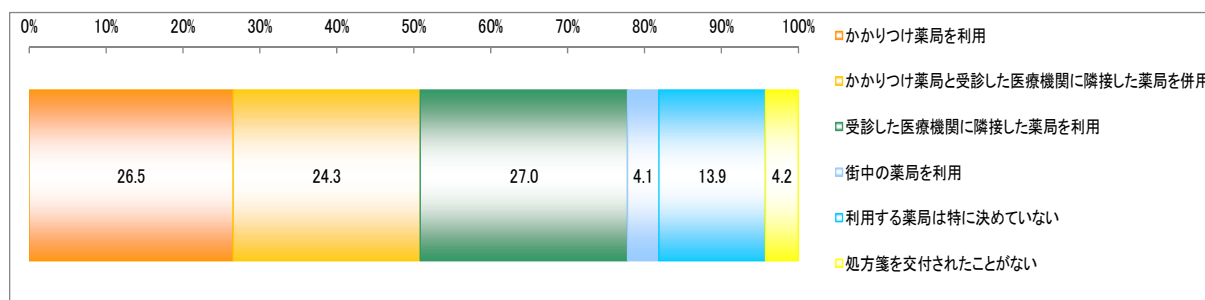
☞ 「千葉」「東葛南部」は健康保険組合が最多(37%前後)、他の7医療圏は国民健康保険が

最多（36.6～48.0%）。

☞ 「20～39才」「40～59才」は健康保険組合が最多（35.5～39.6%）、「60～79才」は国民健康保険が最多（61.0%）。

☞ 男女の違いは小さい。

**Q3 医療機関で交付された処方箋をどこの薬局に持参し調剤してもらいますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。**



■ 処方箋を調剤してもらう薬局は以下：－

（注：「処方箋を交付されたことがない」が4.2%）

1位 かかりつけ薬局を利用・併用：50.9%（「定期的な受診投薬あり」では69.2%）  
（「かかりつけ薬局を利用26.5%」「かかりつけ薬局・医療機関隣接薬局を併用24.3%」）

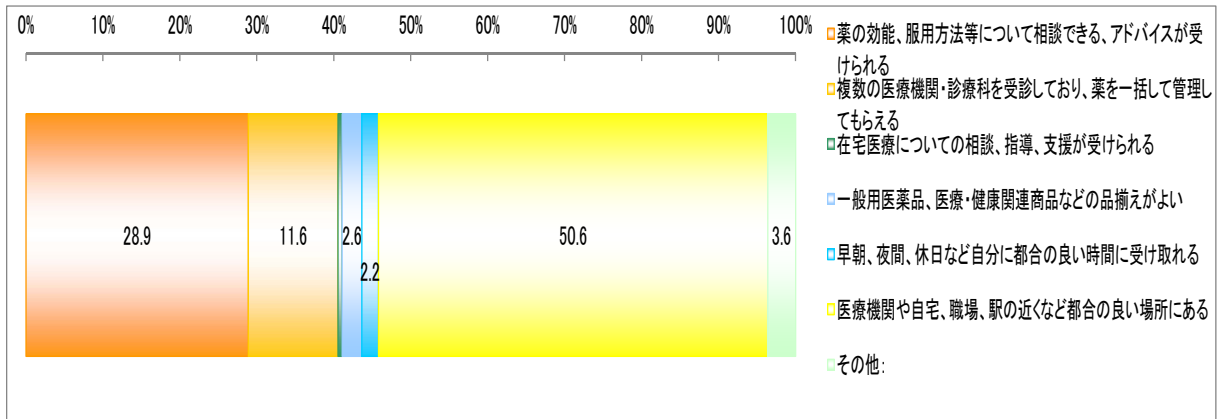
2位 かかりつけ薬局以外：44.9%（「定期的な受診投薬あり」では28.9%）  
（「受診医療機関隣接薬局27.0%」「利用薬局を決めていない13.9%」「街中の薬局4.1%」）

☞ 8医療圏で『かかりつけ薬局を利用・併用』の方が多（「千葉53.9%」が最多、「山武・長生・夷隅48.3%」が最少）。「市原」のみは『かかりつけ薬局を持っていない48.2%』の方が若干多。

☞ 『かかりつけ薬局を利用・併用』は、「20～39才」「40～59才」は5割未満も、「60～79才」では6割超（「20～39才43.9%」→「40～59才47.6%」→「60～79才61.8%」）。その背景は「かかりつけ薬局を利用」の増加（「20～39才19.3%」→「40～59才23.8%」→「60～79才37.1%」）。

☞ 『かかりつけ薬局を利用・併用』は、女性（53.7%）が男性（48.1%）より6P多。

Q4 かかりつけ薬局をお持ちの理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つ選んでください。



■ かかりつけ薬局を持っている（50.9%）の理由は以下：－

1位 場所・時間等の利便性：52.7%

（「場所の利便性 50.6%」「都合の良い時間に受け取れる 2.2%」）

2位 薬局機能の利用：41.1%

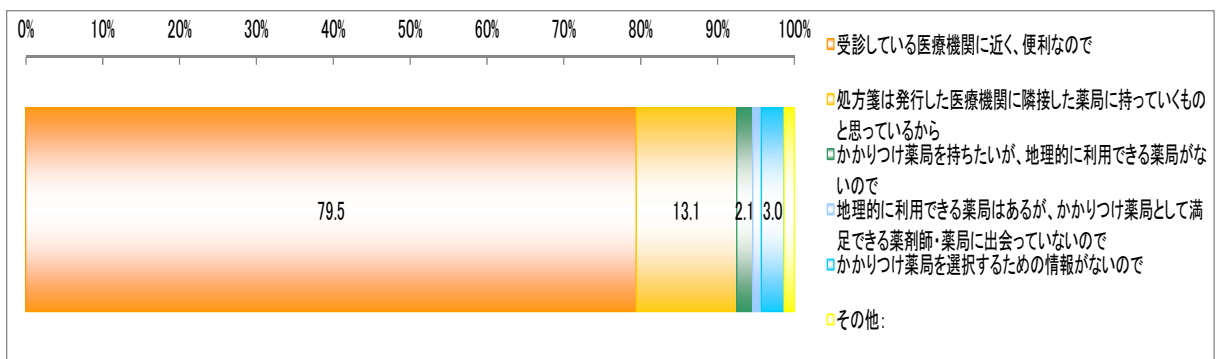
（「薬の効能・服用方法等の相談・アドバイス 28.9%」「薬の一括管理 11.6%」）

☞ 7 医療圏で『場所・時間等の利便性』の方が多く（50.0～54.3%）、2 医療圏（「香取・海匠」「君津」）で『薬局機能の理由』の方が多（49%前後）

☞ 全年代で『場所・時間等の利便性』の方が多いが、同割合は「60～79 才」では減少（「20～39 才 55.7%」「40～59 才 54.2%」→「60～79 才 49.3%」）。一方、『薬局機能の利用』は「60～79 才」になると増加（「20～39 才 38.5%」「40～59 才 38.7%」→「60～79 才 45.2%」）。

☞ 男女いずれも『場所・時間等の利便性』の方が多（53%前後）

Q5 医療機関に隣接した薬局を利用する理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つ選んでください。



■ 医療機関隣接薬局を利用する（27.0%）の理由は以下：－

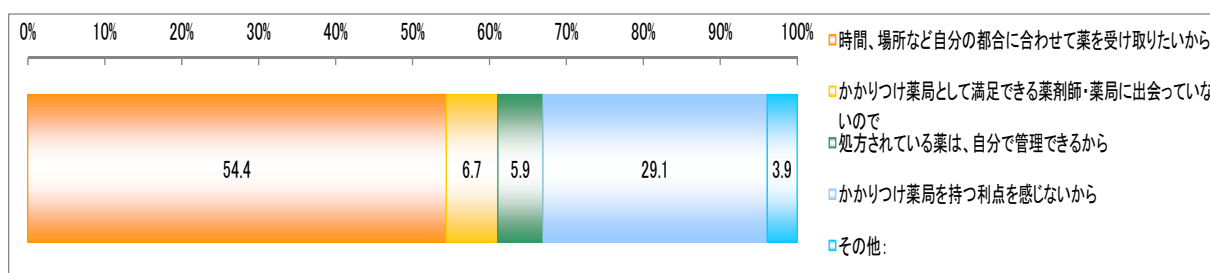
- 1位 受診医療機関に近く便利 : 79.5%
- 2位 処方箋は受診医療機関隣接の薬局に持って行くもの : 13.1%
- 3位 満足できるかかりつけ薬局が無い : 3.2%  
 （「地理的に不便 2.1%」「満足できる薬剤師・薬局に出会っていない 1.1%」）
- 4位 かかりつけ薬局を選択するための情報が無い : 3.0%

☞全医療圏で「受診医療機関に近く便利」が最も多く（「香取・海匠 83.6%」「市原 83.6%」が最多、「山武・長生・夷隅 66.7%」が最少）、一方、『満足できるかかりつけ薬局が無い』は「印旛 6.1%」「千葉 4.1%」が他7医療圏（4%未満）に比べてやや多い。

☞全年代で「受診医療機関に近く便利」が最も多く、同割合は年代が上がるにつれて漸増（「20～39才 75.6%」→「40～59才 80.7%」→「60～79才 82.3%」）。

☞性別による差はほとんどない。

Q6 街中の薬局を利用する、あるいは、利用する薬局を特に決めていない理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つ選んでください。



■ 利用薬局を決めていない（18.0%）の理由は以下：－

- 1位 自分の都合（時間・場所等）に合わせて薬を受取りたい : 54.4%
- 2位 かかりつけ薬局を持つ利点を感じない : 29.1%
- 3位 満足できる薬剤師・薬局に出会っていない : 6.7%
- 4位 処方薬は自分で管理できる : 5.9%

☞8医療圏で「自分の都合（時間・場所等）に合わせて薬を受取りたい」が最も多く（「安房 70.6%」が最多、「山武・長生・夷隅 51.7%」が最少）、次いで「かかりつけ薬局を持つ利点を感じない 22.5～32.6%」。「君津」のみは両者が同率（42.4%）。

☞また、「満足できる薬剤師・薬局に出会っていない」は「千葉」「市原」「香取・海匠」「印旛」（いずれも 10%前後）が他5医療圏（5%前後）に比べて多い。

☞全年代で「自分の都合（時間・場所等）に合わせて薬を受取りたい 51.4～56.7%」が最も多いが、同割合は「60～79才 51.4%」が最少。

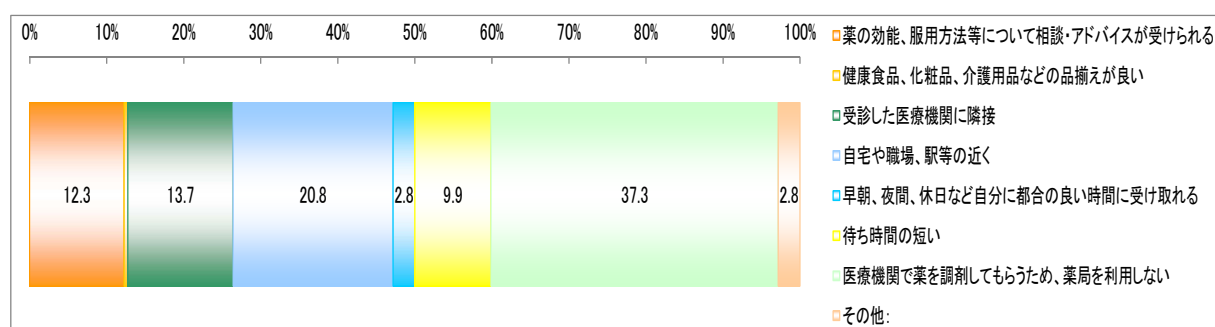
☞「かかりつけ薬局を持つ利点を感じない」は年代が上がるにつれて減少し（「20～39才



32.0%」→「40～59才 28.3%」→「60～79才 24.9%」)、「満足できる薬剤師・薬局に出会っていない」は「60～79才 9.4%」が「20～39才」「40～59才」(いずれも 6%前後)に比べてやや多い。

☞男女いずれも「自分の都合(時間・場所等)に合わせて薬を受取りたい」が最も多いが、その割合は女性(65.8%)が男性(45.2%)よりかなり多い。

**Q7 定期的に服薬しなければならない状態となった時、薬剤師・薬局をどう選びますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。**



■処方箋を交付されたことがない回答者(4.2%)が定期的な服薬が必要になった際の薬剤師・薬局の選定基準は「医療機関で調剤してもらうため薬局を利用しない」が最多(37.3%)

■これを除く具体的な選定基準は分散したが、多い順に以下

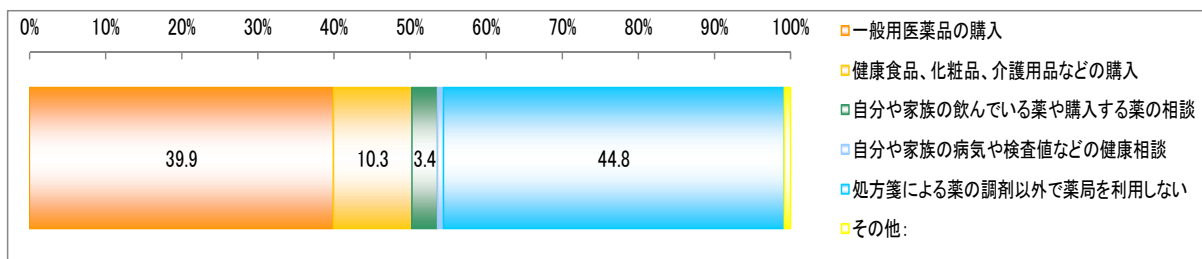
- 1位 自宅や職場、駅等の近くにある薬局 : 20.8%
- 2位 受診した医療機関に隣接した薬局 : 13.7%
- 3位 相談・アドバイスが受けられる薬剤師・薬局 : 12.3%
- 4位 待ち時間の短い薬局 : 9.9%
- 5位以下の選定方法は 3%未満

☞具体的な選定基準は(回答者が30名以上の)3医療圏で様々で、「千葉」は「待ち時間の短い薬局 16.1%」、「東葛南部」は「受診した医療機関に隣接した薬局 17.5%」「相談・アドバイスが受けられる薬剤師・薬局 17.5%」、「東葛北部」は「自宅や職場、駅等の近くにある薬局 28.6%」が最多。

☞具体的な選定基準は、「20～39才」「40～59才」は「自宅や職場、駅等の近くにある薬局」がそれぞれ 19.4%、28.8%で、「60～79才」は「受診した医療機関に隣接した薬局 20.9%」が最多。

☞具体的な選定基準は、男女いずれも「自宅や職場、駅等の近くにある薬局」が最も多いが、その割合は男性(22.7%)が女性(17.9%)より多い。

**Q8 薬の調剤以外で薬局を利用する目的はなんですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。** ※この質問で言う薬局とは薬剤師が常駐し、医療機関の発行する処方箋に従って医療用医薬品等の調剤を行うところとしてお答えください。



■薬の調剤以外で薬局を利用する目的は以下：－

(注：「薬の調剤以外で薬局を利用しない」が44.8%)

1位 処方薬以外の商品の購入：50.2%

(「一般用医薬品39.9%」「健康食品・化粧品・介護用品等10.3%」)

2位 各種相談：4.2%

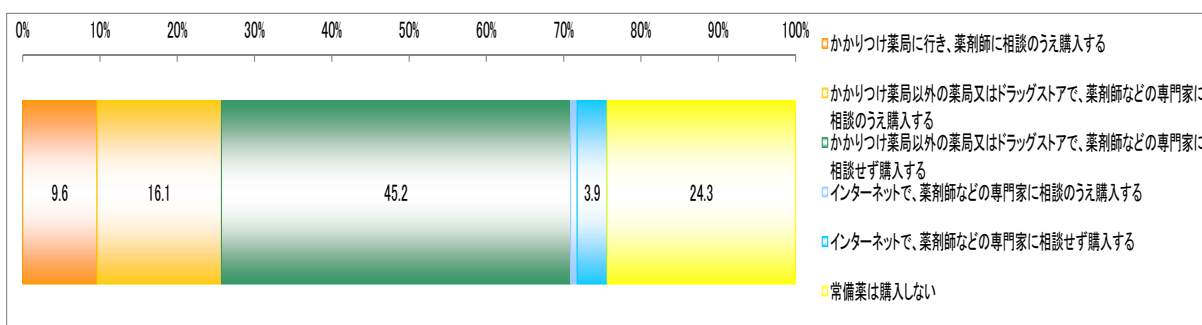
(「薬についての相談3.4%」「健康相談0.8%」)

☞『処方薬以外の商品の購入』が全医療圏で最多で(「香取・海匠53.8%」が最多、「君津40.5%」が最少)、その内訳も全医療圏で「一般用医薬品31.7～46.7%」が「健康食品・化粧品・介護用品等6.8～11.4%」を大きく上回る。

☞全年代で『処方薬以外の商品の購入』が最多(47.8～51.4%)で、『各種相談』も年代差はほとんどない。

☞男女いずれも『処方薬以外の商品の購入』が最多(50%前後)も、その内訳は「一般用医薬品」は男性の方が多く(男性43.6%>女性36.2%)、「健康食品・化粧品・介護用品等」は女性の方が多い(女性12.5%>男性8.2%)。

**Q9 常備薬をどのように入手しますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。**



■常備薬の購入先は以下：－

(注：「常備薬は購入しない」が24.3%)

- |    |                       |         |
|----|-----------------------|---------|
| 1位 | かかりつけ薬局以外の薬局・ドラッグストア等 | ： 61.3% |
| 2位 | かかりつけ薬局               | ： 9.6%  |
| 3位 | インターネットで購入            | ： 4.8%  |

☞全医療圏で「かかりつけ薬局以外の薬局・ドラッグストア等」が最多(「香取・海匠 69.8%」が最多、「安房 53.4%」が最少)。「かかりつけ薬局」は「山武・長生・夷隅 12.1%」が最多、「香取・海匠 7.6%」が最少。

☞全年代で「かかりつけ薬局以外の薬局・ドラッグストア等」が最多(60%前後)。「かかりつけ薬局」は「60～79才 11.7%」が「20～39才」「40～59才」(9%前後)よりやや多い。

☞「かかりつけ薬局以外の薬局・ドラッグストア等」は女性(64.1%)が男性(58.5%)より多く、「かかりつけ薬局」は男性(10.4%)が女性(8.9%)より若干多い。

■常備薬購入時の薬剤師等への相談は『しない』が49.1%、『する』が26.6%

☞全医療圏で『相談しない』が最多(「香取・海匠 55.6%」が最多、「山武・長生・夷隅 42.8%」が最少)。

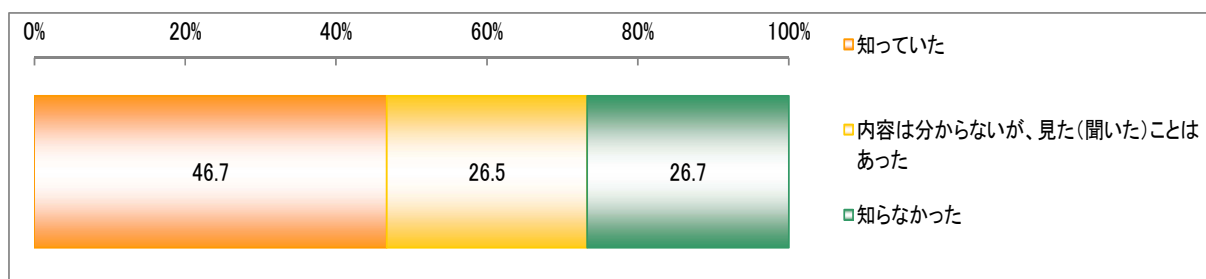
『相談する』は「山武・長生・夷隅 32.8%」が最多、「安房 17.5%」が最少。

☞全年代で『相談しない』が最多(「40～59才 52.2%」が最多)。「相談する」は「60～79才 27.9%」が最多も年代差は僅少(「20～39才」「40～59才」も26%前後)。

☞男女差はほとんどない。

## (2)かかりつけ薬剤師・薬局の実態

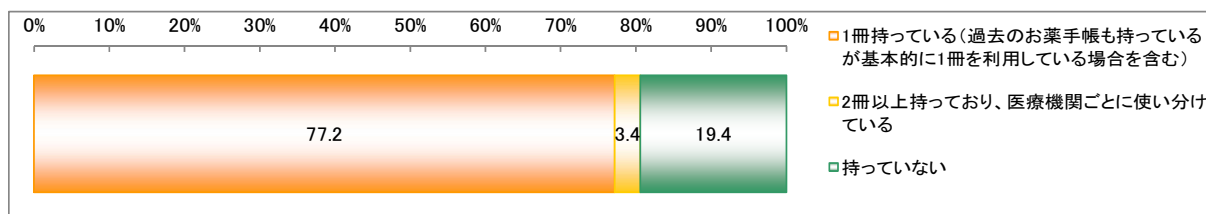
Q11 本アンケートに回答する以前に「かかりつけ薬剤師・薬局」という言葉を知っていましたか。あてはまるもの1つを選択してください。



■かかりつけ薬剤師・薬局の認知度は73.3%（内、「内容も知っていた」は46.7%）

- ☞ 認知度は全医療圏で70%超（「香取・海匠82.7%」が最多、「市原70.3%」が最少）
- ☞ 認知度は「60～79才77.0%」が最多、「40～59才70.0%」が最少。
- ☞ 認知度の男女差は小さい。
- ☞ 認知度は、「定期的な受診投薬あり80.7%」が「定期的な受診投薬なし66.0%」より15P多い。

Q12 お薬手帳を持っていますか。あてはまるもの1つを選択してください。



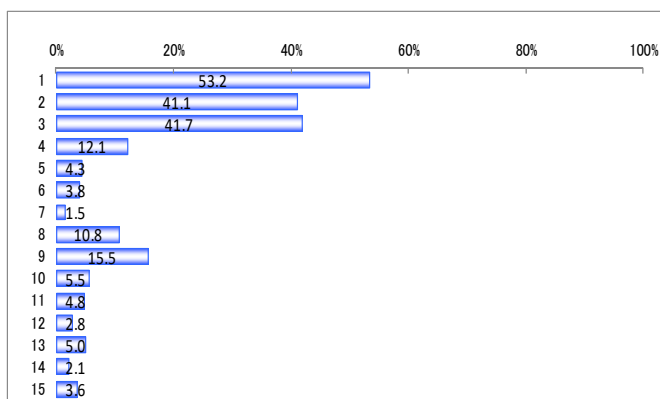
■お薬手帳を「持っている」は80.6%（内、2冊以上は3.4%）

- ☞ 「持っている」は全医療圏で71%以上（「印旛86.2%」が最多、「安房71.8%」が最少）。
- ☞ 「持っている」は年代が上がるにつれて増加し、「60～79才」では88.2%に（「20～39才74.6%」→「40～59才79.3%」→「60～79才88.2%」）。
- ☞ 「持っている」は女性（85.1%）が男性（76.2%）より9P多い。
- ☞ 「持っている」は「定期的な受診投薬あり93.3%」が「定期的な受診投薬なし68.2%」より25P多い。

## 2 薬剤師・薬局に今後求める機能

Q10 今後、薬剤師・薬局にどのような機能を求めますか。あなたにとって重要と思われるものを選択してください。(3 つまで)

	%
全体	5000
薬を適切に使用するための情報の提供と説明	53.2
薬の副作用や効果の継続的な確認	41.1
薬の重複や飲み合わせの確認	41.7
休日を含む24時間の薬の相談、対応	12.1
プライベートに配慮した相談スペース	4.3
血液検査等の健康管理に係る検査機器の設置	3.8
在宅医療の相談・対応(訪問での服薬指導、残薬管理)	1.5
処方内容に疑問や不明点があった場合の医師への確認	10.8
飲んでいる薬を安くする方法についての相談	15.5
家庭に残った調剤された薬の相談、対応	5.5
服用回数を変えてもらうなどし、自分に合った服用方法にしてくれる	4.8
地域の医療機関や介護施設の紹介	2.8
自分や家族の病気や検査値などの健康相談	5.0
自分や家族の介護相談	2.1
その他:	3.6



■ 薬剤師・薬局に今後求める3大機能は、「薬を適切に使用するための情報の提供と説明」「薬の重複や飲み合わせの確認」「薬の副作用や効果の継続的な確認」

- |    |                         |         |
|----|-------------------------|---------|
| 1位 | 薬を適切に使用するための情報の提供と説明    | : 53.2% |
| 2位 | 薬の重複や飲み合わせの確認           | : 41.7% |
| 3位 | 薬の副作用や効果の継続的な確認         | : 41.4% |
| 4位 | 飲んでいる薬を安くする方法の相談        | : 15.5% |
| 5位 | 休日を含む24時間の薬の相談、対応       | : 12.1% |
| 6位 | 処方内容に疑問・不明があった場合の医師への確認 | : 10.8% |

7位以下は6%未満にて省略

☞全医療圏で「薬を適切に使用するための情報の提供と説明」が最多(50.0~59.2%)。

2位・3位も全医療圏で順位は異なるが「薬の重複や飲み合わせの確認」「薬の副作用や効果の継続的な確認」。

☞全年代で「薬を適切に使用するための情報の提供と説明」が最多、次いで「薬の重複や飲み合わせの確認」「薬の副作用や効果の継続的な確認」(3機能のいずれも「60~79才」が最多)。

☞年代間で選択率差が大きい機能は以下。

[60~79才が多い]

- ・薬の副作用や効果の継続的な確認 : 12P差(「60~79才48.0%」>「20~39才36.3%」)
- ・薬の重複や飲み合わせの確認 : 9P差(「60~79才47.8%」>「20~39才38.6%」)
- ・薬を適切に使用するための情報提供と説明 : 5P差(「60~79才56.5%」>「40~59才51.3%」)

[20~39才が多い]

- ・休日を含む24時間対応 : 10P差(「20~39才16.6%」>「60~79才6.5%」)

☞男女いずれも「薬を適切に使用するための情報の提供と説明」が最多。次いで選択者が多い機能は、男性は「薬の副作用や効果の継続的な確認 38.2%」、女性は「薬の重複や飲み合わせの確認 47.6%」。

☞男女間で選択率差が大きい機能は以下。

[男性＞女性]

- ・ 飲んでいる薬を安くする方法 : 6P 差 (男性 18.3%＞女性 12.6%)

[女性＞男性]

- ・ 薬の重複や飲み合わせの確認 : 12P 差 (女性 47.6%＞男性 36.0%)
- ・ 薬の副作用や効果の継続的な確認 : 10P 差 (女性 48.0%＞男性 38.2%)